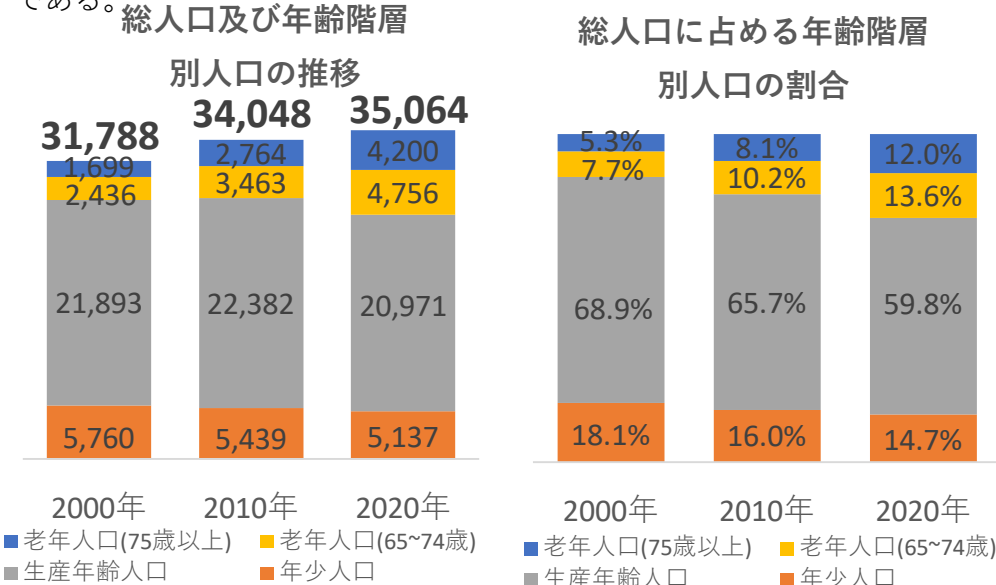


参考資料2 第2次広陵町人口ビジョン(素案)に関する概要について

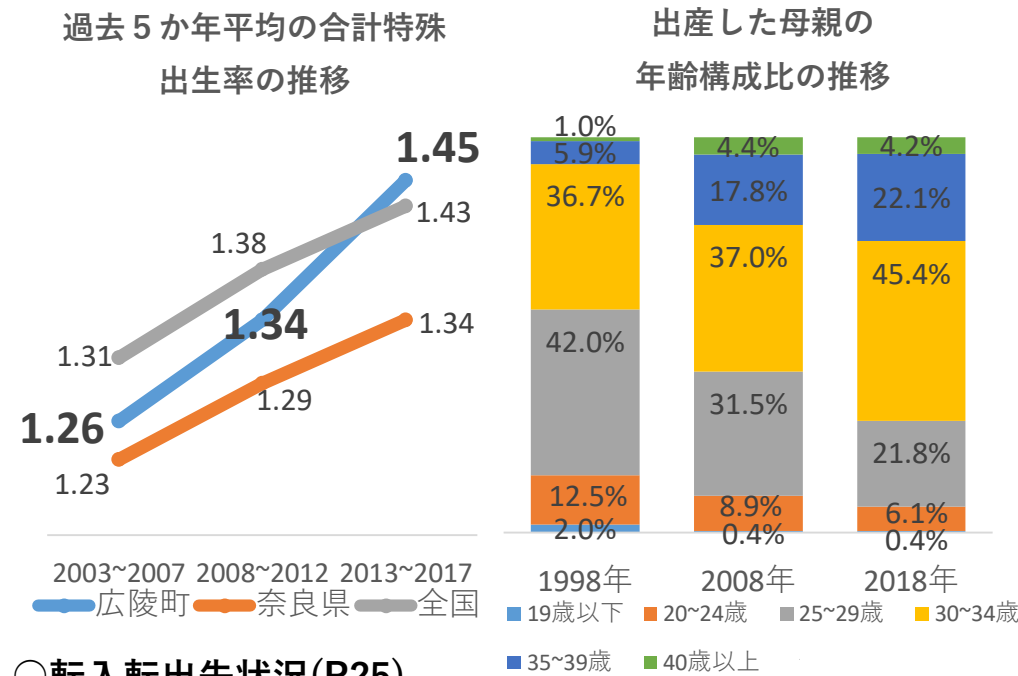
○総人口及び人口区分別の推移(P6)

2000年から2020年にかけて当町の総人口は10.3%増加している。また、2020年の総人口に占める65歳以上の人口割合は約25.6%となっている。2019年1月1日現在の総人口に占める老年人口の割合は、県内39市町村の中でも38番目に位置し、県内において、当町は若い自治体であることが特徴である。



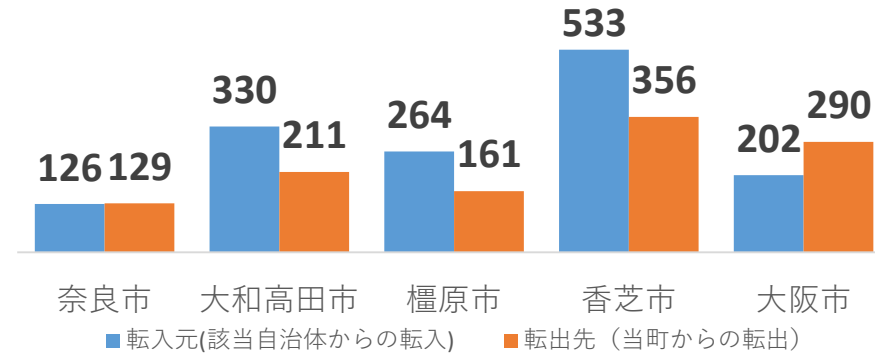
○合計特殊出生率及び出産した母親の年齢構成比の推移(P17-18)

過去5か年平均の合計特殊出生率の推移は伸びており、全国及び奈良県平均よりも高い現状である。また、出産した母親の年齢構成比の推移をみると、出産の高齢化が進んでおり、30歳代の出産割合が高くなっている。



○転入転出先状況(P25)

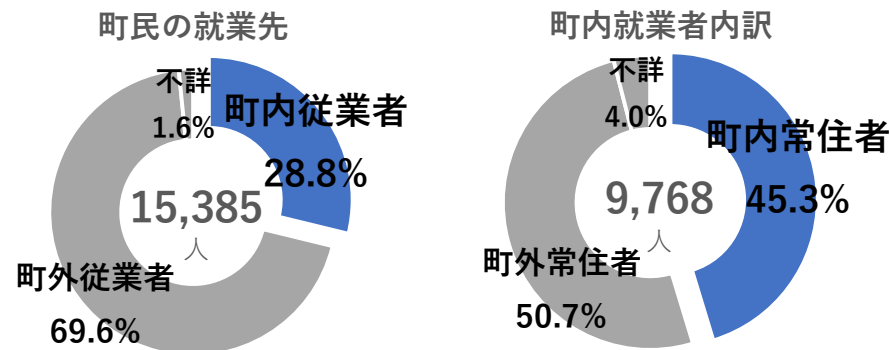
2017年から2019年までの当町への転入及び当町からの転出先TOP5は奈良市、大和高田市、橿原市、香芝市及び大阪市となっており、転出入ともに、香芝市が一番多い結果となっている。また、香芝市に加え、大和高田市や橿原市など、近隣からの転入が多い現状である。



○通勤の状況(P28)

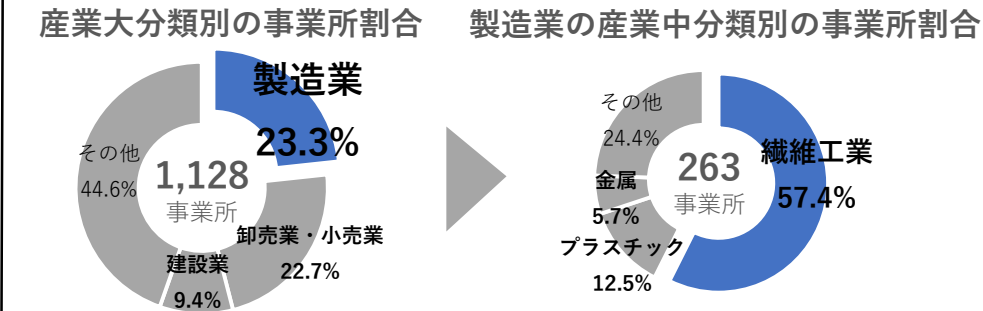
広陵町民の就業者の内、69.6%が町外へ働きに出ており、大阪市が一番多く、全体の15.8%と突出していることから、ベットタウンという地域特性がみられる。

広陵町内で就業する就業者の内、50.7%は町外の方であり、多い順に、香芝市、大和高田市、橿原市となっている。



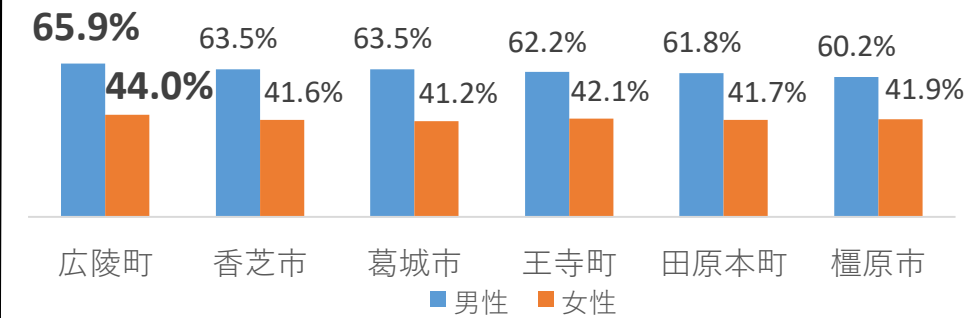
○町内の産業構造(P31-32)

当町の産業大分類別の構成比をみると、製造業が一番多く、製造業の内訳(産業中分類別)の構成比をみると、日本一の生産量を誇る靴下製造業が含まれる繊維工業が約60%を占めている現状である。



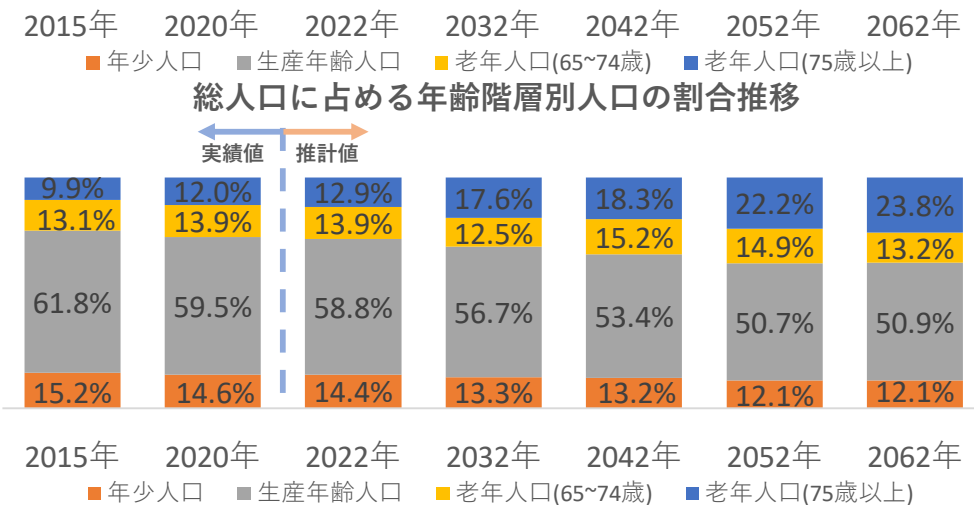
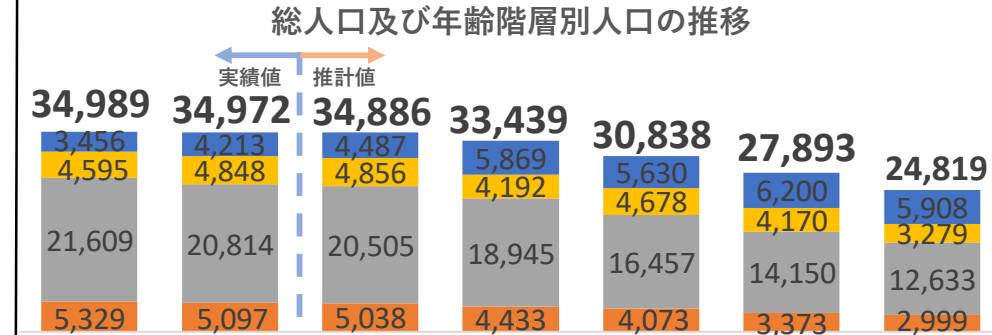
○男女別の就業率(P36-37)

当町を含む県内10市町村と男女15歳以上の就業率を比較すると、双方とも一番高い結果となっており、労働力率についても同様に一番高く、相対的に働く意思を持った住民が多いことがわかる。



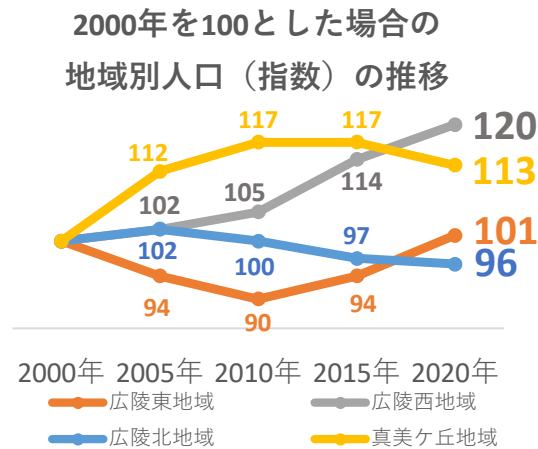
○将来人口推計(P42-43)

当町の人口減少は2032年頃から本格的な減少局面を迎え、2042年頃に65歳以上の人口はピークを迎える。また、2052年頃には当町の総人口は3万人を割り込むことが予測される。



○当町の地域別人口(指数)の推移について(P13)

2000年から一貫して増加している地域は広陵西地域のみであり、真美ヶ丘地域は2015年、広陵北地域は2005年がピークとなっている。また、広陵東地域は2010年から増加している現状である。



○自然増減及び社会増減について(P14)

2010年から2014年にかけて、自然増減はプラスであったものの、以後、高齢化の進展等を背景にマイナスとなっている。社会増減は、2010年以降プラスに転じているものの、増加幅は縮小し、増加人口も2018年には0となり、2020年にはマイナスに転じている現状である。

